

# 研究部の活動について

令和3年度 全国公立学校教頭会 研究部長

松井 良彰

## 1 コロナ禍における研究部の活動

新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収束しない中、我々副校長・教頭は学校の新しい生活様式に基づき、継続して教育活動を行っていくという難しい舵取りに心血を注いでいます。一方タブレットを活用した授業やオンラインでの会議が頻繁に行われるなど、新しい試みも始まっています。このような変化の中にある今こそ、全国の副校長・教頭会の経験と知恵を集集し、学校の新しい生活様式に基づく新たな取組を検討するよいチャンスと捉え、令和3年度の研究部の研究テーマを「『学校の新しい生活様式』に基づく、各地域における学校の取組と副校長・教頭の役割」と設定しました。

部会はすべてオンラインで行いましたが、各研修会の運営や内容について話し合い、実りある研修会を実施することができたと思っています。また令和5年度からの「第13期統一研究主題」についても、役員会からの意見を頂きながら議論を重ね、これから先の時代を見据えた主題を設定することができました。

## 2 研究大会・研修大会の内容

### (1)全国研究大会（佐賀大会）

8月3日、4日の2日間で開催された佐賀大会は、全公教初のオンライン大会でした。研究部としては、分科会開催に向けて提言への助言を重ねてきました。また特別分科会Iでは、放送大学教授の中川一史先生に「新たな生活様式に基づく学校の取組とGIGAスクール構想における副校長や教頭の役割」という演題で講演をいただきました。

### (2)第1回全国研究部長会（7月8日 開催）

「各学校における管理職としての課題」や「副校長・教頭としてGIGAについての職員への働きかけ」を協議の柱としました。東京学芸大学教育学部准教授の高橋純先生に「GIGAスクール構想における教頭の果たす役割」という演題で講演をいただきました。

### (3)第2回全国研究部長会（12月2日 開催）

鳴門教育大学学校教育研究科教授の藤村裕一先生より「一人一台端末活用利用の現状とGIGAスクール構想の今後の展開方向性」という演題で講演をいただきました。講演後には、「ICTの効果的な実用例」「職員の働き方改革としての取り組み例」や「感染症対策下の学校教育で変化が見られたこと」を柱としてグループ協議を行いました。

### (4)中央研修大会（ビデオオンデマンド形式）

テーマは、「働きがいを向上させる働き方改革」と設定しました。オンライン開催の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により「ビデオオンデマンド形式による自主研修」に変更して開催しました。

藤原文雄先生（国立教育政策研究所初等中等研究部長）から「学校における働き方改革のすすめ」当事者

による共同アクション」という演題で講演をいただきました。

シンポジウムでは、テーマを「働きがいを向上させる働き方改革」働き方をデザインする副校長・教頭の役割」とし、埼玉大学教職大学院教授安原輝彦先生のコーディネートのもと、東京学芸大学教育学部准教授高橋純先生、横浜市教育委員会主席指導主事長島和広先生、全国公立学校教頭会副会長布川広先生に「カリキュラム・マネジメントの促進」「校務情報化の役割と働き方改革」についてそれぞれの立場から語っていただきました。

## 3 研究大会・研修大会の成果と課題

コロナウイルス感染症の関係で開催方法が問われる中、オンライン開催による実施が定着しつつある年となりました。研究大会後のアンケートでは、実際に会って話ができなかったことを残念がる声も聞かれましたが、オンラインでも実りある大会であったとの評価をいただきました。ビデオオンデマンド形式による中央研修大会は、時間を気にせずに全会員が視聴でき、成果を全会員に届けることができるという面を示すことができたと思います。

令和4年度は、これまでに行ってきた参集型やオンライン型、それらを組み合わせたいハイブリッド型大会の実施を計画しています。今後は、ウイズコロナ・アフターコロナ後を見据えるとともに、研究大会を働き方改革へと対応させることや活動成果を全会員へ伝えることが課題であると考えています。研修内容や開催方法等について我々副校長・教頭の英知を集め、検討を重ねることにより新しい全公教の活動へと改革が進むことを期待しています。